

## 越境性害虫\*ツマジロクサヨトウを初確認

ツマジロクサヨトウは、トウモロコシ等イネ科作物の世界的な害虫として知られている。本県では2019年10月に成虫を初確認し、本年6月には幼虫の発生を確認していることから、発生地域の拡大と被害に注意が必要である。

### 内 容

2019年7月、鹿児島県でツマジロクサヨトウ (*Spodoptera frugiperda*) の発生が我が国で初めて確認された。その後発生地域は同年内に沖縄県から青森県までの21府県に及んだ。本県では同年10月に淡路地域で成虫(図1)が捕獲され、10月9日付けで病害虫発生予察特殊報を発表している(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/31tokusyu1.pdf>)。

本種は北・南米を原産とするイネ科作物の重要害虫である。飛翔能力が高く、近年急速に分布を広げており、世界的な越境性害虫として注目されている。その勢いは、我が国での発生が中国で2019年1月に初確認されたわずか半年後であったことから分かる。

幼虫(図2)は広く加害作物を持つことが知られているが、国内での発生を見る限りトウモロコシ類での茎葉の食害が多い。特に飼料用トウモロコシは無防除であることが多いため、発生しやすい傾向がみられている。寒さに弱く、国内では越

冬困難とされており、海外からの飛来が毎年の発生源になる。

本県では、本年5月にフェロモントラップで成虫が、6月には淡路地域の飼料用トウモロコシで幼虫が捕獲されていることから、今後の発生地域の拡大と被害が懸念される。

### 普及上の注意事項

特にスイートコーンや飼料用トウモロコシでは注意が必要である。現状では本種に対する登録薬剤はないが、幼虫が発生した場合は特例として、それぞれの作物でチョウ目害虫に適用のある薬剤が使用可能である(植物防疫法第29条第1項)。薬剤抵抗性に関する報告はなく、トウモロコシ類では、同じチョウ目害虫であるアワノメイガに対する防除を基幹とすることで、本種に対する防除効果も期待できる。

八瀬 順也(病害虫部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-1222)

\*高い移動性を持ち、地理的境界を越えて分布を広げる害虫。イネの大害虫トビイロウンカもこれに当たる。

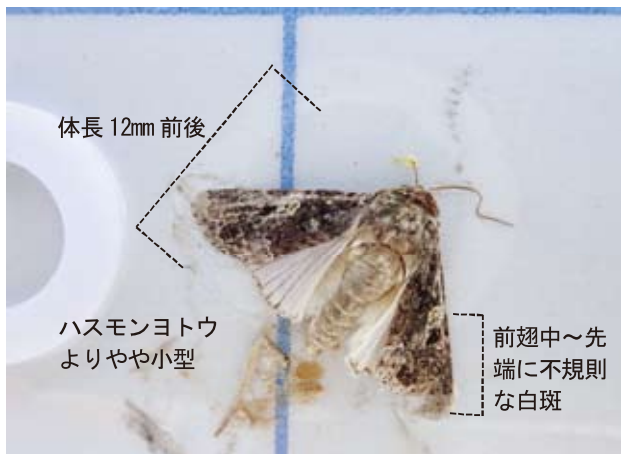


図1 ツマジロクサヨトウ成虫



図2 ツマジロクサヨトウ幼虫